

龍谷大学図書館長 殿

所属・職名 国際学部・准教授
氏名 早島 慧

2023 年度 大型図書 研究成果（経過）報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

購入資料名 「宮内庁正倉院事務所所蔵「聖語蔵経巻」第六期 版経之部・雑書之部 第1回配本 DVD 4枚」	採択年度 2023年度
1. 研究の概要について 本資料は、東大寺尊勝院に所蔵されている古写本群を集成した「聖語蔵経巻」のうち、「乙種写経」のカラー版デジタル複製である。今回の導入により、「乙種写経」を含む「聖語蔵経巻」の全巻が本学に整備され、一大叢書が体系的に揃ったこととなる。 こうした学術的価値の高い資料は、出版部数がごく限られているため、入手の機会を逃すと以後の購入が極めて困難となる。その結果、叢書の一部が欠けた状態での保有を余儀なくされ、研究者や図書館にとって大きな不利益となることが懸念される。このような事態を未然に防ぐためにも、本学図書館への一括導入が必要と判断し、申請に至ったものである。 「龍谷大学深草図書館において、聖語蔵経巻の全巻画像を閲覧できる」という特異かつ高度な研究環境の整備には、学術的に非常に大きな意義がある。今回の資料導入に加え、2023年度にも同様の形で資料を申請・収集し、館内に配架することができた点も、特筆すべき成果である。これらの資料を活用した研究成果が今後現れることが期待されるが、それ以上に、本資料が本学の教員・非常勤講師・研究センターの研究者・大学院生・学部生にとどまらず、学外の研究者にも開かれているという点こそ、最も重要な価値といえる。 将来的には、このような一次資料のデジタル画像がインターネットを通じて広く公	

開されることが理想であるが、現段階ではそのような公開体制は整っておらず、正倉院の原本を実見する機会も現実的には極めて限られている。そのため、現時点においては、深草図書館に所蔵されている本DVD資料を通じて閲覧することが、最も確実かつ有効な方法である。

本資料を全巻揃えて配備した意義は、単なる蔵書の充実にとどまらず、本学が研究支援体制に力を注いでいることを対外的に示すブランディングの一環ともなりうる。今後、本学の研究環境の整備がさらに進展する契機となるとともに、学术界における本学の存在感を一層高める効果をも期待している。

2. 購入資料の活用状況（活用予定を含む）について記入してください。

三谷真澄は、世界仏教文化研究センター基礎研究部門における「西域総合研究班」の代表として、中央アジア出土の仏教文献に関する包括的な研究を推進している。特に敦煌・トルファンを中心とする地域から発見された古写本のうち、日本国内に現存する写本と系統的な関係が認められる資料の存在が明らかとなっており、日本に伝来した聖語蔵写本との比較研究を進める上で、重要な糸口となっている。

この研究によって、中央アジアを経て日本に伝播した仏典の具体的な実例や、それらがいかなる経路で日本に到達したのかといった、仏教文献の伝播とテキスト系統の解明が可能となる。すなわち、本資料を活用することで、仏典テキストのグローバルな流通史を実証的に解き明かす新たな研究展開が期待される。

さらに、三谷は「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター」のセンター長も兼任しており、古写本のデジタル化とその利活用についても積極的に取り組んでいる。その観点からも、本資料の持つデジタル画像資料としての可能性や、研究・教育資源としての有効活用について多角的な検討が進められている。

このように、三谷による直接的な使用にとどまらず、本資料は全国的にも稀少な「欠本のない全巻セット」であるという点において、学内外の研究者にとって大変価値の高い共有資源となる。さまざまな図書予算を有効に活用しながら、全学的な共

通資料として深草図書館に配備する意義は極めて大きいと考えられる。

今後は、本資料の存在を本学内での講義・研究発表にとどめず、広く国内外の研究コミュニティに向けて発信していくことが重要である。その一環として、2023年9月3日に、龍谷大学を会場として開催された日本印度学仏教学会第74回学術大会において、三谷はパネル代表として「大谷探検隊と大谷コレクションが拓く知の地平」と題するパネル発表を行った。パネルでは、大谷コレクションを中心とした仏教文献、とりわけ漢字・非漢字資料を含む写本群について報告がなされ、本資料との関連性も指摘された。

3. 研究発表状況（予定を含む）について記入してください。

・【雑誌論文】（著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年等）

早島慧、『大乘莊嚴經論』注釈書における agotra、日本仏教学会年報、87、2023年

道元徹心、龍谷大学図書館所蔵『観心辨異』の検出について、印度学仏教学研究、72(1) 2023年

長谷川岳史、石山寺蔵 靖邁撰『仏地経論疏』について、いとくら、12、2023年

・【図書】（著者名、タイトル、出版社、発行年等）

阿部泰郎 道元徹心ほか、真宗と聖徳太子、龍谷大学 龍谷ミュージアム、2023年(担当:分担執筆, 範囲:コラム1「聖徳太子講式」)

・【学会発表】（発表者名、発表タイトル、学会名、発表日等）

道元徹心、龍谷大学図書館所蔵『観心辨異』の検出について、日本印度学仏教学会第74回学術大会(於:龍谷大学)、2023年9月2日

三谷真澄、大谷探検隊の概要と大谷コレクション、日本印度学仏教学会第74回学術大会(於:龍谷大学)、2023年9月3日

三谷真澄、「考古資料としての仏教写本～デジタルアーカイブの現場から」、モンゴル国科学アカデミー考古研究所、モンゴル仏教センター・ガンダンテグチェンリン寺学術文化研究所主催「仏教と考古学」学術会議、2023年11月6日

嵩満也、12世紀から13世紀の日本浄土教改革運動に対する南宋仏教の影響、アリゾナ大学・花園大学・龍谷大学世界仏教文化センター共催国際ワークショップ、2023年5月24日

☆資料購入後、**1年以内に研究経過報告書**を提出し、また、**3年以内に研究成果報告書**を提出してください。
加えて著書または学術雑誌等により**研究成果の公表または学会発表**をしてください。
☆公表の際には、参考文献として刊行物に明記してください。